

2020年6月以降の、新聞や雑誌の記事をスキャンしていた分がたまっていますので、それらをASSETSに張り付けています。

**余録**

今から何年前の1980年にはやった言葉は「インスタント時代」だ。少し前に発売されたインスタントラーメンに続き、初の国産インスタントコーヒも登場した。家事の負担が減り、家族で少しずつ余裕を醸し出すようになった。▲池田勇人首相が所得倍増計画を発表した年でもある。インスタント食品を生んだ高度経済成長が本格化していた。安保闘争の直後で、政府には明るい話題で人心を一新したいとの迫りもあった。▲▲所得倍増計画を本手にしてきたのが安倍晋三首相だ。アベノミクスの柱として、国内総生産(GDP)を戦後最大の600兆円に増やす目標を打ち出し、政権浮揚の看板に仕立てた。▲▲「コロナ時代」となって状況は一変した。

**税金の無駄遣いに怒り**

元高校教員 森田 達也(兵庫県三田市)

これほどひどい政権を見ても政治的能力が最大限なことがない。失敗に失敗。築き上げなければならぬ。そしてコロナ禍による経済状況に至り、その政権にもかかわらず、アベノミクスとやらで、当面の底上げが図られてきた。たまたまマスクを配布しただけで、現在のよき状況。よよとしたり、プレイキと

本当に怖いのは…

アクセルを同時に踏む事業と批判されながらも「G.O.」して実施したりと、おかし

11 12版 2020年(令和2年)7月18日(土) 毎日新聞

**絶望を希望に変える経済学**

大竹 文雄 評 (大阪大教授・経済学)

▲ヒジットV・バナジ、エステル・デューロ、村井章子訳 (日本経済新聞出版・2640円)

様々な職業の人がその人の専門について意見を述べた場、あなたはその意見を一言一言信用するだろうか。米国の調査によると、言論師が一言で84%の人が信用した。閣下は、政治家を信用する人は何%だ。経済学者は下から番目。信用する人は25%だ。2019年のノーベル経済学賞受賞者である二人の著者はとても残念な結果だと受け止めた。

著者は、開業途上国においてどのような政策が貧困、教育、健康を改善するかをランダム化比較試験という手法で明らかにしていった。マラリアの感染対策もその一つだ。感染症予防として、防虫剤処理された蚊帳の無償配布の有効性を突き止め、東部の政策に使われ、マラリアで死ぬ子供の数も半分になった。

これは、現実的な研究を現代の経済学者が行っているのに、なぜ世の中の人は信じてくれないのか。それは、悪い経済学が世の中にまかり通っているからだ。悪い経済学は、メディアで楽観的な予測を断定的にするエコノミストの議論の多くを占めている。入門レベルの経済学や過去の主要な経済学者の主張を、そのままだと重要な政策を導くことにも悪い

**平均的な生活の質を上げるには**

経済学者と一般の人の意見が異なるが、経済学者の意見が現実と異なっていた例もある。自由貿易の影響も、各国が相対的に富強な産業に特化する一方で、貿易自由化の負の側面も大きい。貿易の利益の方が大きくなるので自由貿易は望ましい。経済学者の標準的な考え方は、しかし、一般の人は、悪影響が大きいと考える。雇用の研究によれば、経済学者が考えていたよりも、人々は豊かになった地域から移動しないので、負の側面は大きい。

経済学者と一般の人の意見が異なるが、経済学者の意見が現実と異なっていた例もある。自由貿易の影響も、各国が相対的に富強な産業に特化する一方で、貿易自由化の負の側面も大きい。貿易の利益の方が大きくなるので自由貿易は望ましい。経済学者の標準的な考え方は、しかし、一般の人は、悪影響が大きいと考える。雇用の研究によれば、経済学者が考えていたよりも、人々は豊かになった地域から移動しないので、負の側面は大きい。

近代経済学派、社会を良くするには無効な学問であることがわかりました。これからは、生活に役立つ経済理論にお目にかかることができるでしょう

【上】 誰が見ても、安倍政権は景気は良かったものの、それ以外の面では戦後最低の、下品で、世相がなく、恥知らずの馬鹿者の、人権無視の、口酒だけきれいな政権であったという評価は共通していると思います。私は毎日新聞と西日本新聞を読んでいるのですが、読者の投書などを見る限りにおいて、この判断には間違いがないように思えます。



**くらし**

**受動喫煙防止 マナーからルールに**

国立がん研究センターが、受動喫煙防止に関する啓発リーフレット改訂版を公開した。改訂版は、2019年8月の改訂版を改訂した。改訂版は、喫煙者の健康被害を減らすための対策をまとめた。改訂版は、喫煙者の健康被害を減らすための対策をまとめた。改訂版は、喫煙者の健康被害を減らすための対策をまとめた。

**余録**

静岡県を流れる大井川は江戸時代も橋がかからず、人による「徒渡り」が行われた。理由は諸説あるが、技術的要因に加え、川越え組織の権益を保護する必要もあったためという(松村博著「大井川に橋がなかった理由」)。▲その大井川が、注目を浴びている。リニア中央新幹線(品川-名古屋)整備に必要な南アルプスのトンネル工事を通り、事業者のJR東海と静岡県が対立する原因となっている。▲静岡県は、工事に伴う湧水で大井川の水量が減り、流域の暮らしや産業に影響しかねないという主張がある。JR東海は水量を維持されると反論するが、県は着工に同意していない。対立の背景には、東海道新幹線の運行に関する両者の確執も指摘されている。

【左】 タバコを吸う人が、自分でがんになって死ぬのは仕方がないにしても、周囲の人を殺します。ですから、たばこの煙を他者に吸わせないように、罰則を法律で決めようではないかという意見です。時代にあったまともな意見だと思います。歩きスマートフォンも同じで、マナーが守られないなら、罰則をつけるしかないのでしょう。しかしそんな時代にはなって欲しくないですね。

現代が学べる 志 成 館

